

2016年3月14日

長崎県知事 中村法道様

石木ダム建設絶対反対同盟
石木川の清流を守り川棚川の治水を考える町民の会
水問題を考える市民の会
石木川まもり隊
石木川の清流とホテルを守る市民の会

署名提出にあたっての要請書

石木ダム事業に関し、本件事業に反対する私たち県内5団体は、県内外から集められた署名18,665筆を提出するにあたって、以下の理由からあらためて石木ダム事業からの撤退を貴職に求める。

一、1万8千超の県内外の市民の声を真摯に受け止め、当初の約束を守ってください。

2014年9月5日に、長崎県と佐世保市は強制収用を可能にする裁決申請した。その後、私たちは、「強制収用を許さない」との考えで、この署名を開始した。

この署名には、本件事業に対する大きな疑問とダム予定地の豊かな自然と歴史・文化を守りたいという県民の強い願いも込められている。また、新聞の投稿欄に「石木ダムは必要ない」という趣旨の県民の声も散見されている。

そもそも、「強制収用はしない」というのが貴職の県知事選での公約でした。しかし、すでに一部農地が収用され、いまま強制収用の手続きを進めようとしている。このことは、県民への明白な裏切りに他ならない。当初の県民との約束を守ってください。

一、すでに石木ダム事業は破綻している。すみやかに事業中止の決断をすべきです。

石木ダム事業が計画されてすでに50年以上の時間が経っている。しかし、50年以上経ってもまだ実現せず、将来も完成の目途さえたっていない。ということは、本質的に必要不可欠な事業でないことを物語っている。

私たちは、利水、治水において公開質問状等で、詳細に石木ダムが必要ないという具体的なデータを示して論じてきたが、今日まで貴職からそれに対する明確で合理的な説明はない。特に利水においては、佐世保市の人口減少等もあり、数値上も需要は減り続け、佐世保市の作成した需要予測と大きく乖離している。実態に即した需要予測でなく、結果ありきの数字合わせが故意に行われている。もはやごまかしを続けることは、佐世保市民のみならず県民を欺くことと同じです。今、早急にやるべきことは、直接市民生活に影響する老朽化した水道管の調査や更新工事などである。

これ以上、破綻した事業への税金の無駄使いをやめ、すみやかに石木ダム事業中止を決断してください。